

ながさきスポーツビジョン (2021－2025)

素案

長崎県

「ながさきスポーツビジョン(2021-2025)」の概要

目次

「ながさきスポーツビジョン(2021-2025)」の概要	1
スポーツとは	2
新しい生活様式におけるスポーツの在り方	3
ビジョンの基本理念と基本方針	4
＜基本方針1＞生涯スポーツの推進	6
＜基本方針2＞子どものスポーツ機会の充実	12
＜基本方針3＞競技スポーツの振興	16
＜基本方針4＞スポーツを通じた地域の活性化	20
ビジョンの実現に向けて	24
今後5年間に予定されている主な競技大会	25
《コラム》スポーツとSDGs	26
《コラム》eスポーツ	27
長崎県スポーツ推進審議会委員	28

1 ビジョン策定の背景及び趣旨

本県では、平成26(2014)年の「長崎がんばらんば国体」及び「長崎がんばらんば大会」の開催により、スポーツ施設の充実、競技力の向上、大会運営のノウハウの蓄積など様々な成果を得るとともに、県民のスポーツに対する関心も高まりました。

こうした成果を活かしつつ、国におけるスポーツ庁の発足や、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定など社会情勢の動きも踏まえ、平成28(2016)年3月に『ながさきスポーツビジョン(2016-2020)』を策定し、《スポーツを通じた人づくり・地域活性化の推進》を目指して、「生涯スポーツの推進」、「子どもの体力向上と体育・スポーツ活動の充実」、「競技スポーツの振興」、「スポーツを活用した地域活性化」、「スポーツ推進環境の整備」の5つの基本方針を掲げ、様々な施策を展開してきました。

一方、国においては、平成29(2017)年3月に「第2期スポーツ基本計画」が策定され、また、ラグビーワールドカップ2019™の開催、そして東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けた様々な取組が進められ、スポーツを地域づくりに活用する機運も高まる中、令和2(2020)年に入り、新型コロナウイルス感染症が拡大し、私たちの日常生活にも多大な影響を及ぼすこととなりました。

コロナ禍においても、「新しい生活様式」を実践しながら、スポーツをしたり、観戦したりすることは、身体的及び精神的な健康を維持する上で必要なことです。また、本県は全国平均を上回る速さで高齢化が進んでおり、健康寿命も全国平均を下回っていることから、意識的に運動・スポーツに取り組むことは、健康の保持だけでなく、将来的な要介護状態を回避するためにも有効な手段の一つです。

さらに、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指し、2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)において、国連は「スポーツは持続可能な開発における重要な鍵となるものである」としており、世界的な課題に取り組んでいくためには、スポーツが必要不可欠なツールであるとされています。

そのため、本県では、「新しい生活様式」の中で、SDGsの達成にスポーツで貢献していくことを念頭に置きながら、国の第2期スポーツ基本計画を参酌しつつ、本県の特徴を活かした計画となるよう、長崎県スポーツ推進審議会からのご意見を踏まえ、今後5年間の本県スポーツ振興の重要な指針となる「ながさきスポーツビジョン(2021-2025)」を策定いたします。

2 ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、スポーツ基本法第10条第1項に定める国のスポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努めるものと規定された「地方スポーツ推進計画」であるとともに、県政運営の指針となる「長崎県総合計画」及び本県教育の基本的方針を示す「長崎県教育振興基本計画」の下部計画に位置づけられるものです。

3 ビジョンの期間

令和3(2021)年度から令和7(2025)年度までの5年間

スポーツとは

スポーツ基本法において、スポーツは「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」と広く捉えられており、「**スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利**」であるとされています。

過大な負荷をかけずとも、うまくはなくとも、楽しみながら体を動かすことも「スポーツ」です。スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことで参画できます。

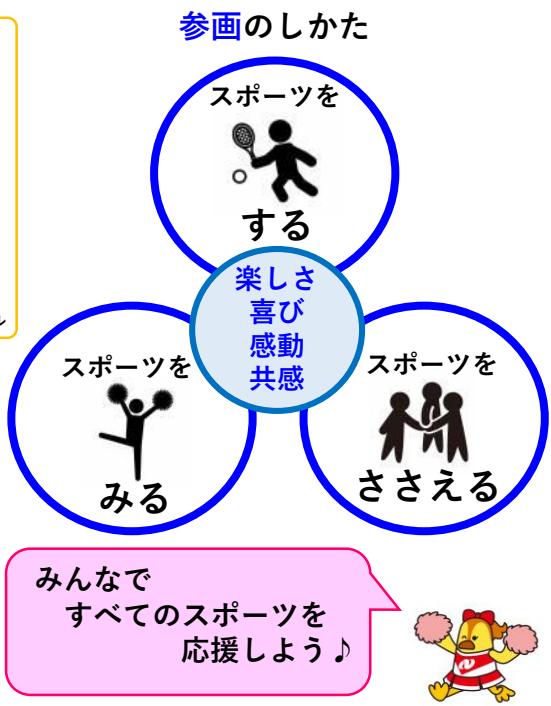
スポーツは「みんなのもの」

様々な形のスポーツ

①健康づくりや仲間との交流など、多様な目的で行うもの

②競技として、限界へ挑戦するもの

散歩 ダンス・健康体操 サイクリング サッカー 車イスバスケットボール



長崎のハタ揚げや五島のバラモン凧揚げも本県ならではのスポーツばい♪



伝統的な船競漕であるペーロンも長崎ならではの運動文化です。

健康長寿社会の実現

体力の向上、心身の健康増進、生活習慣病の予防・改善、介護予防、生きがいづくり、仲間づくり、健康寿命の延伸

スポーツの力

地域・経済の活性化

人々の一体感や連帯感の醸成
地域コミュニティの維持・形成
地域の魅力向上
交流人口の増加
経済発展



平和で持続可能な社会の実現

フェアプレーの精神
豊かな人間性、相互理解
多様性の尊重
国際交流の推進
環境への配慮



新しい生活様式におけるスポーツの在り方

新型コロナウイルス感染症による社会活動の低下は、地域住民の活動（運動）量も低下させており、心身の健康にも影響を及ぼしています。同時に、地域のスポーツの活動も極めて低調になっており、結果としてスポーツを通じた地域コミュニティの減衰等、地域社会の絆にも大きな影を落としています。

適度な運動・スポーツを行うことは、身体的及び精神的な健康を維持する上で必要なことです。安全に運動・スポーツをするポイントを押さえて、運動・スポーツを行うことを心掛けましょう。

適度な運動・スポーツを行うことによって得られる効果

- 自己免疫力の向上（感染に対する抵抗力）
- ストレス解消（メンタルヘルスの改善）
- 体重コントロール（生活習慣病の予防・改善）
- 体力の維持・向上（筋力の維持・向上）
- 血流の促進（腰痛・肩こりの改善、冷え性・便秘の解消、良好な睡眠）

〈子ども〉 発育期の健全な成長
〈高齢者〉 筋量・筋力の維持、転倒防止、認知症予防、食欲増進

安全に運動・スポーツをするポイント

◆ 感染防止の3つの基本

- ①手洗い・手指消毒
- ②距離の確保
- ③マスクの着用※

新型コロナウイルスやインフルエンザとくに感染せんとするために、押さえとくべきポイントばい。



◆ 熱中症の予防

- こまめな水分・塩分の補給
- 休憩の確保
- 風通しの良い服装や着帽

こまめな換気も忘れずに



※マスクを着用したまま運動・スポーツをすると、水分補給を忘れてたり、体温が下がりにくいことがありますので注意してください。息苦しさを感じた時はすぐに外すことや休憩を取る等、無理をしないでください。

自宅で動画を見ながら、体操や筋トレ・ヨガ・太極拳などに挑戦してみるのもオススメばい。



ふとか声は出せなくても、会場の一体感や臨場感はそのに行かんばわからんばい！感染予防対策ば万全にして、会場へ応援しに行こうで！



◎スポーツ施設の利用について

【施設】 新型コロナウイルス感染症の感染防止に限らず、利用者が安心安全に運動・スポーツをする場の提供をすることが求められます。

【利用者】 利用者全員が安心安全に気持ちよく、運動・スポーツができるよう施設が設けているルールやマナーを守り、スポーツマンシップに則った行動を心がけましょう。

1 基本理念

長崎の未来をスポーツで創る

すべての人々がスポーツに関わり、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことで健康な体や生きがいをつくっていく、スポーツが将来を担う子ども達の健全な心と体を育てていく、スポーツが県民に感動や活力を与え、地域ににぎわいや豊かさを生み出していく。そんな長崎の未来をスポーツで創っていきます。

2 基本方針

基本理念の実現に向けて、以下の4つの基本方針に基づき施策に取り組んでいきます。

1 生涯スポーツの推進

目指す姿

県民の誰もが、年齢や性別、障害の有無に関わらず、それぞれの体力や技能、興味、目的に応じて、スポーツに親しむことにより、健康で活力のある生活を営んでいます。

2 子どものスポーツ機会の充実

目指す姿

将来を担う子どもたちが、主体的・対話的で深い学びを起点とした豊かなスポーツライフを実現するため、生涯にわたって運動に親しむとともに、健康の保持増進を図る資質や能力を身に付けています。

3 競技スポーツの振興

目指す姿

本県出身の選手が、国際大会や全国大会等で活躍し、県民に大きな感動と活力を与え、郷土愛が育まれています。また、活躍した選手が指導者としても役割を担い、更なる競技力の向上や競技人口の拡大が図られており、スポーツ界の好循環が生まれています。

4 スポーツを通じた地域の活性化

目指す姿

本県の豊かな自然の中でスポーツを楽しむため、国内外から人々が訪れ、交流することにより、地域ににぎわいや豊かさが生まれています。

基本方針

具体的施策

指標

1

生涯スポーツの推進

- 1 スポーツ活動への参加の促進**
 - スポーツ活動の機会の充実
 - スポーツ活動への参加促進に向けた普及・啓発
- 2 スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実**
 - 総合型地域スポーツクラブの拡大充実
 - スポーツを支える活動の推進
 - 既存施設の有効活用によるスポーツ環境の整備
 - バリアフリー化の推進
- 3 スポーツを通じた健康増進・生きがいづくり**
 - 健康・体力づくりの推進
 - 高齢者がスポーツを楽しむ機会の充実
- 4 障害者スポーツの推進**
 - 障害者スポーツの裾野を広げる取組

★成人の週1回以上のスポーツ実施率

令和2年度 45.5%
⇒ 令和7年度 54.0%

★総合型地域スポーツクラブの会員数

令和元年度 5,316人
⇒ 令和7年度 6,400人

2

子どものスポーツ機会の充実

- 1 幼児期における運動・スポーツ活動の推進**
 - 幼児期運動指針をいかした遊びの推奨
 - 体力向上に関する指導者の指導力向上
- 2 「生きる力」の育成を図る体育学習の展開**
 - 学習指導の充実
 - 指導や評価方法の工夫・改善と指導者の指導力向上
- 3 児童生徒の体力向上**
 - 指導体制の確立
 - 児童生徒及び保護者の体力向上にかかる啓発
 - 指導者の指導力向上
 - 運動の場の工夫と時間の確保
- 4 運動部活動の活性化**
 - 適切な運動部活動のための指導者の指導力向上
 - 持続可能な運動部活動の在り方研究・推進
- 5 学校体育団体の活動支援**
 - 学校体育団体との連携・強化

★全国体力・運動能力、運動習慣等調査における全国平均以上の種目

令和元年度 19種目
⇒ 令和7年度 全種目(34種目)

★全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「体育の授業で運動のやり方やコツがわかった」児童生徒の割合

令和元年度 89.7%
⇒ 令和7年度 90.0%

3

競技スポーツの振興

- 1 競技スポーツ選手・指導者の計画的な育成・強化**
 - ジュニア選手の発掘・育成・強化
 - 成年選手の育成・強化
 - 指導者の育成・資質向上
- 2 競技スポーツ環境の整備**
 - 育成・強化体制の充実
 - 一貫指導体制の強化・充実
 - 競技スポーツ大会の支援
 - メディア広報の積極的活用
 - 障害者スポーツの競技力向上
- 3 選手サポート体制の充実**
 - スポーツ医・科学の活用
 - トレーナー事業の活用
 - スポーツモラルの啓発

★国民体育大会の順位(総合成績)

令和元年度 26位
⇒ 令和7年度 20位台前半

★本県ゆかりの日本代表選手数

令和元年度 55人
⇒ 令和7年度 65人

4

地域を通じたスポーツの活性化

- 1 スポーツツーリズムによる地域の活性化**
 - 地域が主体となったスポーツ合宿・大会の誘致促進
 - 海外チームキャンプ誘致の推進
 - スポーツを通じた国際交流の推進や本県の情報発信
 - サイクルツーリズム等のスポーツツーリズムによる観光振興と地域活性化
- 2 プロスポーツクラブを活用した地域の活性化**
 - クラブを活用した地域のにぎわいづくり創出
 - 長崎スタジアムシティプロジェクトとの連携

★スポーツ合宿参加者数

令和元年度 5,885人
⇒ 令和7年度 7,777人

★スポーツコンベンション参加者数(九州大会以上)

令和元年度 12.1万人
⇒ 令和7年度 18.0万人

生涯スポーツの推進

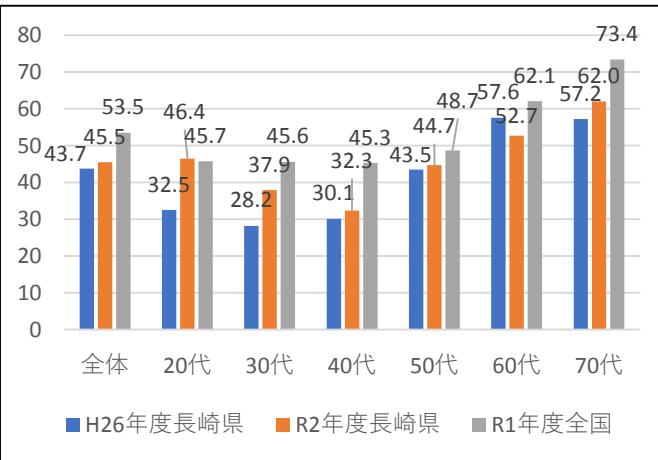


【写真提供】総合型クラブたびスポ

現状と課題

○県民のスポーツ実施状況

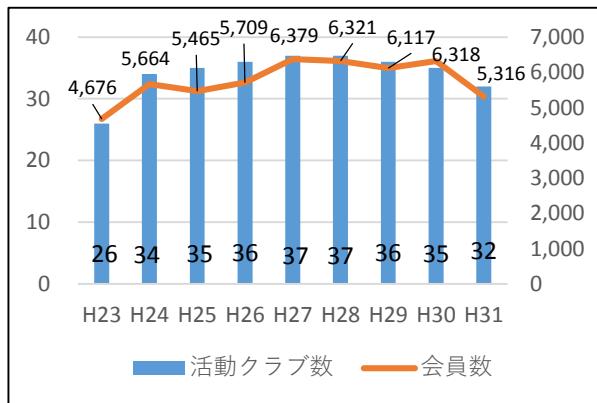
【成人の週1回以上のスポーツ実施率】



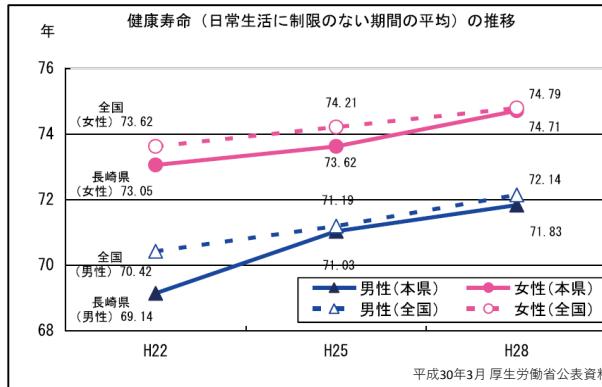
60代を除き、前回調査を上回ったものの、20代以外は全国平均を下回っています。スポーツを週1回以上できなかった理由としては全体では「面倒くさいから」が最も多く、30代と40代では「仕事や家事が忙しいから」が最も多くなっています。また、「子どもに手がかかるから」は女性(6.6%)が男性(2.4%)の2倍以上になっています。そのため、スポーツを習慣化させるための施策はもとより、スポーツに関心がない無関心層に対するスポーツをする気にさせる施策も必要となっています。

○県内の総合型地域スポーツクラブの状況

地域住民により自主的、主体的に運営され、住民の日常的なスポーツ活動の場となる総合型地域スポーツクラブについては、県内19市町において、32クラブ（R2.6月現在）が、子どもや勤労世代への運動機会の提供、高齢者の介護予防等、地域課題の解決に向けた活動を行っています。しかしながら、県民の総合型地域スポーツクラブの認知度は8.6%と非常に低く、その活動が県民に十分理解されているとは言えない状況です。クラブ数・会員数ともに一番多かったH27年度以降、減少傾向にあります。会員数だけでなく、指導者・後継者の確保等といったクラブの存続に関わる課題を抱えているクラブもあります。



○県民の健康の状況



【健康寿命】
男性71.83年(全国30位)
女性74.71年(全国28位)
 (平成28年調査)

【1日の歩行数の平均値】
男性7,061歩 (34位)
女性6,929歩 (14位)
 (平成28年国民健康・栄養調査)

これまでの健康づくり等の取組で本県の健康寿命は延伸していますが、男女とも全国平均には至っていない状況です。1日の歩行数についても、特に男性は低迷しており、引き続き、健康寿命の延伸や生活習慣の改善に向けた取組が必要となっています。

○県内の高齢化の状況

本県は、全国平均を上回る速さで高齢化が進んでおり、団塊の世代が75歳以上となる令和7(2025)年には、65歳以上の高齢者人口は約44万人(高齢化率35.2%)でピークに達すると見込まれています。また、平成31年3月末現在における要介護認定者数は約88千人で、65歳以上人口に占める割合は20.4%となっております。健康づくりや介護予防の取組を行うとともに、高齢者が地域の中でいつまでも健康で活躍できる環境づくりを進めることが、必要となっています。



県民の誰もが、年齢や性別、障害の有無に関わらず、それぞれの体力、興味、目的等に応じて、「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しむことができるよう、スポーツ活動への参加の促進やスポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実、スポーツを通じた健康増進・生きがいつくり、障害者スポーツの推進に取り組みます。

1 スポーツ活動への参加の促進

(1) スポーツ活動の機会の充実

県民体育大会と県民スポーツ・レクリエーション祭を柱とした「ながさき県民総スポーツ祭」については、多くの県民が参加できるよう内容を工夫・充実した上で継続して開催するとともに、11月の「県民スポーツ月間」において、県民のスポーツへの参加機会を創出する取組を展開してもらえよう県内各市町や関係団体に働きかけていきます。

また、スポーツ実施率が低い子育て世代が親子や家族で参加できるスポーツ・レクリエーションイベントの開催や、誰もが気軽に参加できるイベントの定期的開催の実現に向けて取り組みます。

(2) スポーツ活動への参加促進に向けた普及・啓発

○スポーツ情報の発信

スポーツを「する」「みる」「ささえる」人を増やすため、野球やサッカーといった県民に馴染みの深いスポーツをはじめ、本県の自然を生かしたカヌーやヨットなどの海洋スポーツ、トレッキングやキャンプなどのアウトドアスポーツ、東京オリンピック競技大会で初めて競技種目に採用されたスケートボードやスポーツクライミング、2024年パリオリンピックで採用されるブレイクダンスなどのアーバンスポーツ、また、本県ならではのペーロンやハタ揚げ、凧揚げといった伝統行事などについても、SNS（ソーシャル・ネットワークング・サービス）等を活用しながら幅広い情報発信に努めます。

○「がんばらんば体操」の普及啓発

県民体操「がんばらんば体操」※1については、誰もが気軽に取り組める長崎県オリジナルの体操であるため、体験会の開催など引き続き、普及啓発に努めます。

※1 がんばらんば体操

県民の健康・体力づくりと平成26年に開催した長崎がんばらんば国体及び長崎がんばらんば大会の機運醸成を目的として、平成19年度に創作した誰もが気軽に取り組める長崎県オリジナルの楽しい県民体操です。本県出身の歌手さだまさしさんの曲「がんばらんば」を使っています。「がんばらんば」は長崎弁で「頑張らない」という意味です。

2 スポーツ環境の基盤となる「人材」と「場」の充実

(1) 総合型地域スポーツクラブの拡大充実

○クラブに対する支援

令和4年度から始まる総合型地域スポーツクラブにおける登録・認証制度に向けて、県スポーツ協会やクラブアドバイザー等と連携し、クラブの設立運営支援や既存クラブの質的充実に向けた支援を行い、クラブ数の増加や会員数の拡大を図ります。

○市町とクラブとの連携・協力関係の構築

総合型地域スポーツクラブを通じて地域課題の解決が図られるよう、各市町に対する先進事例の紹介や市町の自主的な取組に対する支援を行うなど、市町とクラブとの連携・協力関係を構築します。

○クラブの認知度向上・文化団体等との連携

クラブの活動を知ってもらい、クラブの会員数を増やすため、V・ファーレン長崎のホームタウン活動※2と連携した取組を行うなど、積極的な広報活動に努めるとともに、住民が文化・スポーツに親しみやすい環境を整えるため、地域住民のニーズに応える活動プログラムの設定や充実など、市町や文化団体等と連携して魅力あるクラブの育成に取り組みます。

(2) スポーツを支える活動の推進

○スポーツ推進委員等の指導力と資質の向上

市町が委嘱するスポーツ推進委員※3や総合型地域スポーツクラブの指導者などを対象とした研修会を開催するなど、地域のスポーツ振興を支える人材の指導力や資質の向上を図ります。

○各種スポーツ表彰制度による表彰

県民栄誉賞、県民表彰、県スポーツ表彰、県教育長顕彰、(公財)長崎県スポーツ協会表彰など、各種スポーツ表彰制度により、本県体育スポーツの振興に貢献している個人、団体を表彰します。

(3) 既存施設の有効活用によるスポーツ環境の整備

学校施設については、県民のスポーツ活動の場として、体育施設や余裕教室の有効活用を推進するとともに、公共スポーツ施設と併せ、活用促進に向けた周知に取り組みます。

また、既存施設や未利用地の活用方策を検討するにあたっては、スポーツができる場所の新たな創出も視野に入れて進めていきます。

成人の週1回以上のスポーツ実施率

令和2年度 **45.5%** ⇒ 令和7年度 **54.0%**

総合型地域スポーツクラブの会員数

令和元年度 **5,316人** ⇒ 令和7年度 **6,400人**

(4) バリアフリー化の推進

既存の公共スポーツ施設について、高齢者や障害者も含め、誰もが利用しやすい施設となるよう関係団体と連携して課題の把握を行い、その解消に努めます。

3 スポーツを通じた健康増進・生きがいつくり

(1) 健康・体力づくりの推進

○健康・体力づくりに関する情報発信

長崎県健康増進計画「健康ながさき21(第2次)」との整合を図りながら、日常的に家の中でもできる運動、ウォーキングなど健康・体力づくりに関する情報発信に取り組みます。

○職場における健康づくりの取組推進

職域保健と連携して、就業世代の身体活動・運動を実践しやすい環境づくりのため、従業員の健康づくりに積極的に取り組む「健康経営」の推進等、職場での取組を推進します。

○「ながさき3MYチャレンジ」の普及啓発

長崎県の「健診受診」「運動(歩行)」「食事(野菜摂取)」の課題に対応して策定したキャッチフレーズ「ながさき3MYチャレンジ」の実践定着に向けた普及啓発を推進します。

○「ウォーカブルなまちづくり」の推進

歩きたくなる路上空間の創出や仕掛けの構築など、各市町における「ウォーカブルなまちづくり」を推進するための取組を支援するとともに、成人の体力づくりのために、県立都市公園における健康遊具の設置を進めます。

(2) 高齢者がスポーツを楽しむ機会の充実

○スポーツやレクリエーションの普及推進

高齢者のスポーツ活動などへの参加を促すため、高齢者が気軽にできるスポーツやレクリエーションの普及及び推進を図ります。

○長崎県ねんりんピックの開催

長崎県ねんりんピックを開催することにより、高齢者のスポーツと文化活動を通じた健康の保持・増進と生きがいつくりを推進するとともに、高齢者相互及び地域間の交流を促進することにより、明るい長寿社会づくりを推進していきます。

4 障害者スポーツの推進

(1) 障害者スポーツの裾野を広げる取組

県内各地に障害者スポーツの普及を図り、日常的にスポーツ活動に親しむことで、より積極的な社会参加と生活の質の向上に資することを目的に、以下のことに取り組みます。

○指導者の派遣

障害者スポーツの指導者を登録した「障害者スポーツ人材バンク」を活用し、指導者を学校・施設等へ派遣します。

○大会や教室の開催

長崎県障害者スポーツ大会やスポーツレクリエーション教室を開催します。

○アスリートや指導者との交流

地域のスポーツフォーラムやスポーツレクリエーション教室等において国際大会、国内大会等で活躍するアスリートや指導者と交流することで障害者のスポーツへの参加意欲の向上を図ります。



※2 ホームタウン活動

リーグでは、クラブの本拠地を「ホームタウン」と呼び、クラブはそれぞれのホームタウンにおいて、地域社会と一体となったクラブづくり(社会貢献活動を含む)を行い、サッカーをはじめとするスポーツの普及および振興に努めなければならないとされています。V・ファーレン長崎は県内21市町をホームタウンとして様々な活動を行っています。

※3 スポーツ推進委員

市町村におけるスポーツ推進のため、教育委員会規則(特定地方公共団体にあっては、地方公共団体の規則)の定めるところにより、スポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツ実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行う者。

総合型地域スポーツクラブってなに？

総合型地域スポーツクラブとは、
住民の住民による住民のための地域スポーツクラブのことばい。



総合型地域スポーツクラブには**3つの特徴**があるの



①多様目

複数の種目が楽しめます。スポーツの他にも、外国語講座等の文科系種目を開講しているクラブもあります。

②多世代

子どもから高齢者まで、世代や年齢・性別を問わず誰もが参加できます。

③多志向

上手になりたい・強くなりたい人も気軽に楽しみたい人も、その人の技術や目的の違いに応じた活動ができます。



運動・スポーツをする側だけでなく、指導する側、運営する側と、いろいろな関わり方を持ち、クラブば中心に地域住民のみなさんがつながり合う、地域の新しきコミュニティでもあるとさ。

住民

子ども 青少年 大人
高齢者 障害者

クラブ
への参加

- ・会員として
- ・指導者として
- ・運営者として

総合型地域スポーツクラブ

【理念・目的】

地域や住民を元気にする
～人づくり・まちづくり・生きがいづくり～

◎総合型地域スポーツクラブを通して地域の課題解決が行われている事例

スポーツを通じた健康の保持増進 (NPO法人ALH)

地域包括支援センターと連携・協働し、自主運動教室の立ち上げ支援や介護予防教室事業などにより、地域住民の健康の保持増進に取り組んでいます。

学校運動部活動との融合 (NPO法人総合型SC長与スポーツクラブ)

文部科学省の学校の働き方改革を踏まえた部活動改革を受け、中学校卓球部の週末の活動を担うなど、部活動との融合を進めています。

市民の健康・いきがい・仲間づくり (NPO法人コミュニティスポーツクラブTEAMひまわり)

幼児や高齢者の運動教室、小学生と一般（中学生以上）を対象とした曜日別教室など、市民の「健康・いきがい・仲間づくり」や気軽にスポーツができる環境づくりに取り組んでいます。

◎県ホームページに県内のクラブの紹介や連絡先等を掲載しています。



近くのクラブ
をチェックし
てみてね♪



ながさき 3MYチャレンジ ってなに？

県では、県民の皆さんに健康づくりに取り組んでいただくため、長崎県民の課題である毎年一回の健診受診、毎日の運動（歩行）、食事（野菜摂取）をキャッチフレーズとして策定しました。毎年、毎日の「毎」、自分の「MY」、3つの**チャレンジ**という意味を込めています。

のばそう健康寿命

～人生**100**年時代に向けた長崎県の挑戦～

県民みんなで
取り組もう

毎年・毎日の「毎」、自分の「MY」、3つのチャレンジで、

ながさき 3MYチャレンジ

毎年 **一** 回、健診受けて

毎日 **二** コニコ9000歩

毎日 **三** 回、野菜を食べて

よ ーしみんんで健康長寿!



ウォーカブルなまちづくり ってなに？

歩行者を優先した路上空間や屋外のオープンスペース、歩きたくなる仕掛けなどのある「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」のことです。

車を使わず、徒歩・自転車・公共交通機関を中心とした、ウォーカブルなまちづくりを行うことで、日々の暮らしにおいて身体活動量を増加させ、県民の皆さんが健康になるようなまちづくりを目指します。



子どものスポーツ機会の充実



【写真提供】長崎県中学校体育連盟

現状と課題

○子どもの体力について

全国体力調査を種目別にみると、本県の児童生徒は、持久力や敏捷性は優れていますが、柔軟性などに課題が見られます。また、昭和60年度と比較すると明らかに劣っており、全国と同様、運動に親しむ子どもとそうでない子どもの二極化現象が見られます。その原因として、都市化・生活の利便化等の生活環境の変化、睡眠や食生活等の子どもの生活習慣の乱れなど様々な要因が絡み合い、結果として子どもが体を動かす機会が減少していることが考えられます。

また、児童生徒のテレビ、DVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコン等による映像の視聴時間と体力合計点の関係をみると、平日1日当たりの映像視聴時間が長時間になると体力合計点が低下する傾向がみられます。

家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康かつ安全で活力ある生活を送るための基礎を培うことが求められます。

○運動部活動について

少子化に伴う運動部活動数及び所属生徒数の減少等により、チーム競技等においては特に活動に支障をきたしています。顧問教員の負担を軽減するためのスポーツ指導者の確保についても課題があり、その形態や運営についても工夫が必要です。競技によっては、運動部活動だけでなく、地域スポーツクラブなどで行われている競技もあります。少子化に伴う部員減少から、複数校合同チームの参加が増加していますが、練習環境の問題などがあり、運動部活動の見直しや精選が必要となっています。

このようなことから、学校における体育・スポーツにおいて、「生きる力」の育成を図るため体育学習の充実を図るとともに、今後さらにより多くの児童生徒が部活動に参加するための条件整備や、発育・発達段階や多様なスポーツへのニーズに対応できるよう、県中学校体育連盟、県高等学校体育連盟、県高等学校野球連盟、県学校体育研究連合会などの学校体育団体とより一層の連携を図り、子どものスポーツ機会の充実に取り組む必要があります。

■全国体力調査 全国平均と長崎県平均の比較

種目	学年・性別・区分	小学校5年生				中学校2年生						
		男子(平均値)		女子(平均値)		男子(平均値)		女子(平均値)				
		長崎県	全国	長崎県	全国	長崎県	全国	長崎県	全国			
①握力(kg)	↓	15.96	16.37	↓	15.78	16.09	↑	28.86	28.65	↓	23.53	23.79
②上体起こし(回)	↓	19.22	19.80	↓	18.08	18.95	-	26.89	26.96	↓	23.42	23.69
③長座体前屈(cm)	↓	31.07	33.24	↓	35.48	37.62	↓	41.66	43.50	↓	44.08	46.32
④反復横とび(回)	↓	41.41	41.74	↓	39.98	40.14	↑	52.14	51.91	↑	47.57	47.28
⑤持久走(秒)	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
⑥シャトルラン(回)	↑	52.49	50.32	↑	42.96	40.79	↑	88.87	83.53	↑	64.21	58.31
⑦50m走(秒)	↓	9.43	9.42	↓	9.66	9.64	↓	8.09	8.02	↓	8.86	8.81
⑧立ち幅とび(cm)	↓	150.28	151.45	↓	143.91	145.68	↑	196.34	195.03	↑	169.95	169.90
⑧ボール投げ(m)	↑	22.58	21.61	↑	14.27	13.61	↓	20.34	20.40	↓	12.86	12.96
合計点(80点満点)	↓	52.94	53.61	↓	54.92	55.59	↓	41.40	41.69	↓	49.73	50.22

(令和元年度 スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」)

■1週間の総運動時間 ※体育の授業を除く

小学校	性別	1週間			
		0分	1~1時間未満	1時間以上~7時間未満	7時間以上
		男子	0分	1~1時間未満	1時間以上~7時間未満
全国	3.6%	4.0%	40.8%	51.5%	
長崎県	3.3%	3.4%	36.7%	56.7%	
女子	0分	1~1時間未満	1時間以上~7時間未満	7時間以上	
全国	4.7%	8.3%	56.9%	30.1%	
長崎県	4.5%	7.8%	50.8%	36.9%	

中学校	性別	1週間			
		0分	1~1時間未満	1時間以上~7時間未満	7時間以上
		男子	0分	1~1時間未満	1時間以上~7時間未満
全国	5.2%	1.9%	9.4%	83.5%	
長崎県	4.0%	1.5%	8.7%	85.7%	
女子	0分	1~1時間未満	1時間以上~7時間未満	7時間以上	
全国	13.0%	6.4%	18.9%	61.7%	
長崎県	10.5%	6.6%	16.8%	66.1%	

(令和元年度 スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」)

※WHOによると子どもは1日60分の中～高強度の運動を毎日行うことを推奨しています。

「知って、わかって、できて、楽しい体育授業」の充実を図ることを柱に、運動の習慣化による体力の向上を目指すとともに、豊かな人間性を養うため、生徒の多様化するスポーツニーズに対応した運動部活動の在り方の工夫・改善に取り組みます。

1 幼児期における運動・スポーツ活動の推進

(1) 幼児期運動指針をいかした遊びの推奨

文部科学省が平成24年3月に策定した幼児期運動指針によると、幼児は様々な遊びを中心に、毎日、合計60分以上、楽しく体を動かすことが大切であるとされ、そのポイントとして「1 多様な動きが経験できるように様々な遊びを取り入れる」「2 楽しく体を動かす時間を確保する」「3 発達の特性に応じた遊びを提供する」の3つが挙げられています。

これらについて、幼児に直接かかわる保育者対象の研修会をはじめ、園長等運営管理者対象の研修会等においても折に触れ取り上げます。また、自然体験活動に関する事業の紹介を積極的に行い、運動遊びについての普及啓発に努めます。

(2) 体力向上に関する指導者の指導力向上

平成28年と30年に、「幼児期の運動遊び」をテーマに講義と実技を組み合わせた研修会を開催したところ、幼児期運動指針及びその具体的実践方法についての理解推進に成果が見られました。また保育者からも、研修会のテーマとして運動遊びを望む声が聞かれていますので、今後も引き続き、幼児期の運動遊びについての研修会を開催します。

幼児にとっては遊びや生活の全てが、体づくりを含む総合的な学びの機会であることから、他のテーマで開催される研修会においても、運動遊びの視点を取り入れるように努めます。



2 「生きる力」の育成を図る体育学習の展開

(1) 学習指導の充実

新しい学習指導要領に示されている、「する」「みる」「ささえる」「しる」の観点からの体育の授業をめざして、体の動かし方や運動のコツの理解を深め、運動に関する基礎的な知識を育成し、すべての児童生徒が運動を好きになり、意欲的に運動に取り組み、運動が得意になるとともに、豊かなスポーツライフを実現するために、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身につけるよう体育学習指導の充実に努めます。

また、心身の健康や安全について理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育成することができるよう保健学習指導の充実に努めます。

(2) 指導や評価方法の工夫・改善と指導者の指導力向上

研究校等の指定や研修会・講習会の実施、学校体育研究団体との連携により、学習指導要領に沿った指導や評価方法の工夫・改善と指導者の指導力向上に努めます。



全国体力・運動能力、運動習慣等調査における全国平均以上の種目
令和元年度 19種目 ⇒ 令和7年度 全種目(34種目)

全国体力・運動能力、運動習慣等調査における
「体育の授業で運動のやり方やコツがわかった」児童生徒の割合
令和元年度 89.7% ⇒ 令和7年度 90.0%

3 児童生徒の体力向上

(1) 指導体制の確立

体育や保健の授業はもとより、特別活動など学校教育活動全体を通じて、安全面などに配慮しつつ、体育、保健体育活動が活発になるように努めます。特に「体育授業の充実」と「運動習慣・生活習慣の改善」の2つを柱とし、各学校に「体力向上アクションプラン」の作成と実施を促すとともに、体力向上に向けた取組のP D C Aサイクルの構築に取り組みます。

(2) 児童生徒及び保護者の体力向上にかかる啓発

地域の専門的指導者を活用し、児童生徒及び保護者の体力向上への意識の高揚に努めます。本県の課題である柔軟性の向上や自校の体力の課題を念頭に、「親子体力向上実践セミナー」やWEB上で長縄とびやストレッチ等の記録を競う「フィットネスランキングながさき」を取り入れるほか、県が作成・配布した資料等を例示して、取組の活性化を図ります。

(3) 指導者の指導力向上

外部講師による体力向上に関する研修会を開催し、指導者の指導力向上に努めます。

(4) 運動の場の工夫と時間の確保

休み時間や放課後等の時間を児童生徒が有効に使い、体力の向上が図られるよう器具や遊具施設を整備し、その活用についての啓発や体力の向上を図る正しい使用方法について情報を共有します。

文部科学省からの資料提供や研究指定校の実践を基に、体育（保健体育）の時間以外での体力の向上を図る事例を紹介します。

4 運動部活動の活性化

(1) 適切な運動部活動のための指導者の指導力向上

生徒のバランスのとれた生活と成長の確保、スポーツ障害・疾病の予防などの観点から、「長崎県運動部活動の在り方に関するガイドライン」をもとに、児童生徒の発達段階に応じた適切な運動部活動の指導や確実な休養日の設定が行われるよう、スポーツ医・科学を基にした運動部活動指導者研修会の充実を図り、指導力の向上に努めます。

(2) 持続可能な運動部活動の在り方研究・推進

少子化等による運動部活動への参加者の減少や、指導者の確保が困難になっている状況に対応するため、総合型地域スポーツクラブとより一層の連携を図りながら、複数校運動部活動や、子どもの興味・関心に応じて多様なスポーツに親しむことができる総合運動部活動の在り方の検討に取り組み、持続可能な運動部活動の在り方を研究し推進してまいります。

5 学校体育団体の活動支援

(1) 学校体育団体との連携・強化

競技力の更なる向上を目指し、異なる校種間の連携・交流により各競技種目で一貫した指導体制を継続し、県中学校体育連盟や県高等学校体育連盟の各競技専門部及び県高等学校野球連盟が連携して指導できる体制の維持に取り組みます。体育・スポーツの健全な普及発展と競技水準の向上を目指し、学校体育団体とより一層の連携を図り、活動を支援してまいります。

競技スポーツの振興



【写真提供】長崎新聞社

現状と課題

本県では、平成26(2014)年に開催された「長崎がんばらんば国体」において、総合成績1位を達成しました。地元国体開催を契機に、小学生—中学生—高校生—大学生・社会人の系統的な競技力向上を推進する一貫指導体制を構築しました。

長崎国体で培った指導体制を一過性のものとして終わらせることなく、競技力向上のレガシーを継承し、県スポーツ協会、各競技団体、学校体育団体等が共通の認識をもって、更なる競技力の向上に努める必要があります。

また、競技力向上を図るためには、優秀指導者の確保・育成をはじめ、スポーツ医・科学分野を活用して、選手や指導者に対する総合的なメディカルサポート体制の充実も求められています。

将来の本県競技力を担うジュニア選手が、一人でも多く日本代表として世界の舞台へ羽ばたく選手として活躍できるように、中・長期的な視点で競技力の向上を推進していくことが重要です。



○国民体育大会の成績（平成24年岐阜国体から令和2年鹿児島国体まで）

年度 開催地	H24 岐阜	H25 東京	H26 長崎	H27 和歌山	H28 岩手	H29 愛媛	H30 福井	R1 茨城	R2 鹿児島
男女総合成績 (天皇杯順位)	20	10	1	17	28	24	41	26	開催 延期

○国民体育大会における成年・少年別成績状況（掲載上記と同じ）

年度・開催地	H24 岐阜	H25 東京	H26 長崎	H27 和歌山	H28 岩手	H29 愛媛	H30 福井	R1 茨城	R2 鹿児島
成年種別	245.0	401.0	1148.5	262.0	352.5	222.0	155.5	177.5	開催 延期
少年種別	294.5	418.5	815.5	418.5	167.0	318.0	169.5	325.5	
総合得点	939.5	1219.5	2364.0	1070.5	919.5	940.0	725.0	903.0	

※総合得点は参加点を含む。



【写真提供】長崎新聞社

各競技団体の一貫指導体制に基づき、中・長期的な視点に立ち、系統的かつ計画的な選手の発掘・育成・強化に取り組むとともに、本県選手が日本代表として世界の舞台で活躍できるように、優秀選手の重点強化及び優秀指導者の確保と更なる資質向上を目指します。また、一貫指導体制の好循環を図るため、次世代アスリートとなるジュニア選手の育成・強化及び優秀成年選手の確保と県内定着により競技力の裾野の拡大を目指します。

1 競技スポーツ選手・指導者の計画的な育成・強化

(1) ジュニア選手の発掘・育成・強化

○中・長期的なジュニア選手の育成・強化

各競技団体の一貫指導体制システムを活用し、発達段階に応じたスポーツ体験教室・ジュニア教室等により、ジュニア期から系統的かつ計画的な選手の発掘・育成・強化を図るとともに、本県の競技特性や各競技団体の組織体制に合わせた中・長期的な強化支援を行います。

○世界の舞台で羽ばたく選手の育成・強化

本県ジュニア選手が、将来の日本代表として素晴らしい活躍ができるように、「世界の舞台へ羽ばたく選手」の育成を目指し、全国トップクラスの優秀選手の重点的な育成・強化を図り、競技力向上を行います。

○本県の競技特性を活かした重点的強化

国民体育大会に向けた競技力向上のため、本県の獲得得点割合が高い少年種別の団体競技や国民体育大会入賞実績が高く、競技特性や地域的な特性から本県が強みをもつ「お家芸競技」の重点的な強化を行い、更なる国民体育大会の総合成績の躍進を図ります。

○マリンスポーツの強化・充実

本県の地理的条件を活かしたマリンスポーツの重点強化・充実に取り組み、競技人口の拡大を図り、競技力向上を推進します。

(2) 成年選手の育成・強化

○成年選手の確保と県内定着の支援

国民体育大会に向けた競技力向上のため、全国レベルの優秀な成年選手の確保と県内定着を図るため、「ふるさと選手」制度の活用と県内企業雇用促進の支援を推進します。

○クラブチームや企業・大学チーム等の支援

成年選手の活動母体となる企業・社会人クラブチーム、大学チーム等の支援を行い、競技力向上を推進します。

(3) 指導者の育成・資質向上

○競技指導者の育成と資質向上

県スポーツ協会・県競技団体・学校体育団体等と連携し、強豪チームへの研修派遣、優秀指導者招へいによる講習会等への参加促進と支援を行い、競技指導者の育成と資質向上を推進します。

2 競技スポーツ環境の整備

(1) 育成・強化体制の充実

○関係団体と連携した選手の育成・強化

競技スポーツ選手の育成・強化については、県スポーツ協会・競技団体・高等学校体育連盟・中学校体育連盟等と連携し、成長・発達段階に応じたジュニア選手の発掘・育成に努め、計画的に選手を強化し、成年選手へとつなげていく一貫指導の「発掘→育成→強化」の体制を今後も継続して推進していきます。

○強化・育成拠点となる高等学校運動部の指定

全国大会等での活躍が期待できる高等学校運動部を指定し、競技力の強化・育成の拠点として、競技特性に応じた質の高い強化事業の充実を図ります。

○優秀指導者の適正配置等による競技力向上

各競技の強化・育成の拠点となる学校に、継続して優秀な指導者等の配置を行い、競技力の向上に努めます。

(2) 一貫指導体制の強化・充実

○競技団体の強化体制推進と連携

各競技団体の中・長期的な競技力推進計画を支援するため、県スポーツ協会・学校体育団体等と連携し、円滑かつ効果的な競技力強化事業を進め、競技力向上を図ります。

○地域の強化拠点の推進と連携

本県開催の全国スポーツ大会等で培った地域を基盤とした選手強化のシステムを機能させながら、「地域の強化拠点」とし、より高いレベルを目指した育成・強化に努め、地域との連携と競技力の向上を推進します。

(3) 競技スポーツ大会の支援

○本県開催全国大会等に向けた強化支援

「令和6年度全国高等学校総合体育大会」、「令和7年度全国中学校体育大会」、「令和7年度国民体育大会九州ブロック大会」等の各全国・九州大会等での本県選手の活躍と意識高揚を図るため、県スポーツ協会、競技団体、県高等学校体育連盟、県中学校体育連盟等の関係機関・団体と連携し強化支援に取り組みます。

国民体育大会の順位（総合成績）

令和元年度 **26位** ⇒ 令和7年度 **20位台前半**

本県ゆかりの日本代表選手数

令和元年度 **55人** ⇒ 令和7年度 **65人**

○競技施設・設備等の充実

国民体育大会等開催を契機として整備された既存の競技施設を点検・整備し、誰もが利用しやすく時代に即した施設・設備の充実を図ります。

(4) メディア広報の積極的活用

○SNS等を活用したPR活動推進

各競技及び国民体育大会等に対する県民の理解と認知度を高めるために、報道関係機関におけるメディア報道の協力やSNS等を積極的に活用し、各競技の競技大会や強化事業・活動の取組等のPR活動を推進します。

○優秀選手の各種表彰等におけるPR活動推進

本県選手が全国大会等で活躍することは、県民に大きな活力と勇気をもたらします。また、ジュニア選手にとって大きな励みとなり、競技スポーツに取り組む積極的な姿勢と更なる飛躍につながるため、各種表彰等を継続します。

(5) 障害者スポーツの競技力向上

○指導者の派遣

障害者スポーツの指導者を登録した「障害者スポーツ人材バンク」を活用し、指導者を学校・施設等へ派遣します。

○アスリートの活動支援

障害者スポーツを行う団体が開催する県内大会等に対して助成している「長崎県障害者スポーツ振興助成金」において、アスリートの活動を支援します。

○関係機関の連携強化

障害者スポーツ振興に向けて、長崎県障害者スポーツ協会と関係団体との連携を強化し、競技力の向上を目指します。



3 選手サポート体制の充実

(1) スポーツ医・科学の活用

○スポーツ選手体力総合診断の活用

競技パフォーマンスを向上させるためには、選手の発達段階や競技特性に応じた最新のスポーツ医・科学の見地に基づく「科学的なトレーニング」と「栄養・休養」等を適切に行うことが不可欠です。令和元年に整備した最新の体力総合診断測定機器を有効活用し、医・科学に関するデータ等を収集・分析し、選手や指導者へフィードバックの充実を図ります。

○スポーツ医・科学を担う組織の整備・充実

トップアスリートや県民がスポーツを安全かつ効率的に行い、本県の競技力向上を推進していくため、スポーツドクター、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士等のスポーツ医・科学関係者及び団体や研究機関との連携を図り、サポート体制を担う組織の整備・充実を推進します。

(2) トレーナー事業の活用

○アスレティックトレーナー県協議会との連携

スポーツ選手に対するサポート体制支援のため、競技団体とアスレティックトレーナー長崎県協議会との連携を推進します。

○国民体育大会等へのトレーナー派遣

国民体育大会及び九州ブロック大会における、競技団体チームに帯同するトレーナーの派遣を支援し、競技力向上を図ります。

(3) スポーツモラルの啓発

○アンチ・ドーピング教育・啓発教育の推進

競技者・指導者等がスポーツにおける薬物乱用・誤用の認識を高め、健全なスポーツ活動を実践していくために、国民体育大会選手団を中心にアンチ・ドーピング啓発教育に継続して取り組みます。



【写真提供】V・ファーレン長崎

現状と課題

○スポーツ合宿・大会誘致について

スポーツ合宿・大会誘致の一元的窓口として平成28年3月に設置した「長崎県スポーツコミッション」を中心に合宿誘致に取り組んでおり、そこで蓄積した競技毎の受入ノウハウや構築した人脈、合宿補助金制度を活かした活動等により、合宿誘致件数等は増加傾向にあります。

スポーツ合宿参加者数

	H28	H29	H30	R1	R2目標
件数	207	233	252	302	-
人数	4,939	4,749	5,910	5,885	6,392

スポーツコンベンション参加者数（九州大会以上）

	H28	H29	H30	R1	R2目標
件数	177	252	219	208	-
人数	140,761	142,389	146,293	124,566	155,000

今後は、さらに誘致件数を増加させていくために、過去の参加者や県外チームからの意見に基づく受入環境の整備を図るとともに、参加者の口コミやSNS等を活用した積極的な情報発信により、新規合宿・大会の誘致に向けて取り組んでいく必要があります。

○海外チームキャンプ誘致について

市や長崎県スポーツコミッションと連携して東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ誘致に取り組んできた結果、平成29年以降、海外ナショナルチームによるトレーニングキャンプが実施され、更には、ラグビーワールドカップ2019™においては2カ国のキャンプ誘致にも成功したことから、海外チームの受入れに関するノウハウや人脈が構築されてきています。

海外ナショナルチームキャンプ受入実績

- トレーニングキャンプ
 - 〔H29〕ベトナム：フェンシング（諫早市）
 - 〔H30〕ベトナム：空手、柔道（長崎市）
 - ポルトガル：競泳（長崎市）
 - 〔R1〕ベトナム：空手、競泳、柔道（長崎市）
 - 陸上競技（諫早市）
 - ラオス：競泳（長崎市）
 - ポルトガル：トライアスロン（大村市）
 - スペイン：レスリング（島原市）

○ラグビーワールドカップ2019

- 事前・公認キャンプ
 - 〔R1〕スコットランド（長崎市）
 - トンガ（島原市）

東京オリンピック・パラリンピック競技大会及びラグビーワールドカップ2019™開催を契機とした海外ナショナルチームのキャンプ受入れを通じて、本県と相手国との信頼関係の構築や、国内外への合宿地としてのPR効果もたらされました。さらに、こうした海外チームによるキャンプ実施を一過性のもので終わらせることなく、大会後も長崎県での海外ナショナルチームによるキャンプ実施を定着化させるなど、スポーツによる地域ブランド化を更に推進していく必要があります。

○長崎県スポーツコミッションについて

スポーツコミッションが、これまでの実績を踏まえて、将来に渡って求められる役割を担うには、持続可能な組織体制の構築や戦略構築、ノウハウの継承といった運営面の強化を推進していく必要があります。

○プロスポーツクラブについて

本県唯一のプロサッカークラブであるV・ファーレン長崎について、観客数は年々増加傾向にありますが、更なる交流人口の拡大による地域の活性化につなげるためには、県外から訪れるアウェイ客の誘致が必要となります。

また、令和3年のBリーグ参入を目指して創設されたプロバスケットボールクラブ長崎ヴェルカについて、県民に親しまれるクラブとなるよう、知名度向上や県民の関心を高めるための情報発信を行うとともに、V・ファーレン長崎と同様にクラブと各自治体が一緒に地域の課題解決を図るための連携体制を構築していく必要があります。長崎市の中心部において進められている長崎スタジアムシティプロジェクトについて、施設の有効活用など事業者と連携し、地域の活性化につなげていく必要があります。

○新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、スポーツ合宿や海外チームキャンプの誘致を例年通り行うことはできず、プロスポーツも中止や無観客試合が続きました。これからのウィズコロナ時代においては、スポーツ合宿や大会の誘致に取り組むにあたり、新しい生活様式に対応した受入体制を整備する必要があります。

地域の様々な資源を生かしたスポーツツーリズムの推進や障害者スポーツを含む国内外のスポーツ合宿・大会誘致による交流人口の拡大など、それぞれの地域でスポーツの力による地域のにぎわいづくりを推進します。

1 スポーツツーリズムによる地域の活性化

(1) 地域が主体となったスポーツ合宿・大会の誘致促進

○受入体制の整備

長崎県スポーツコミッションと県内自治体、競技団体等が連携し、スポーツ合宿・大会における企画・運営担当者や対応スタッフの育成を行うなど、選手が快適に過ごせるような受入体制の整備を推進します。

また、長崎県スポーツコミッションでは「スポーツ合宿・大会に向けた新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を策定し、受入に係る指針を示しました。今後は市町、競技団体と協議を行いながら、スポーツ団体が求める感染症対策を講じ、安全安心かつ持続的な合宿等の受入を推進します。

○リピーターの確保

合宿参加者の満足度を向上させリピーターとしての定着を図るため、県内自治体や長崎県スポーツコミッション、競技団体、宿泊施設等との連携により、これまでの受入ノウハウを活用した受入体制を構築します。

○長崎県スポーツコミッションの体制強化

持続可能な組織体制を構築するため、ノウハウを組織内に蓄積させていくとともに、中央団体や競技団体からの情報を積極的に入手し市町と共有することで、各地域の実情に応じた戦略構築をこれまで以上に図ります。



(2) 海外チームキャンプ誘致の推進

○国際大会事前キャンプ等の誘致

これまでの誘致活動で築いた各国の政府、オリンピック委員会、競技団体等とのコネクションを活用し、国内及び近隣諸国で開催される国際大会に向けた事前キャンプなどの誘致にさらに積極的に取り組みます。

○リピーターの確保

キャンプ参加者の満足度を向上させリピーターとしての定着を図るため、これまでの海外チームキャンプ受入の経験並びに県内自治体や長崎県スポーツコミッション、競技団体、宿泊施設等との連携により構築するスポーツキャンプ実施に関する受入ノウハウを活用したキャンプの受入を行います。

○武道ツーリズムの推進

日本の伝統的な武道である空手、柔道、剣道などは、海外で高い人気を誇っていることから、武道を見たり、体験したりすることを目的とした訪日観光客の獲得に向けて、海外ナショナルチーム等によるキャンプ誘致やホストタウン※相手国等との情報交換を進めていくとともに、武道を使った体験プログラムを創出するなど、武道ツーリズムを目的とした訪日観光客の受入体制づくりに取り組みます。

(3) スポーツを通じた国際交流の推進や本県の情報発信

○スポーツ交流の実施

海外チームキャンプの実施においては、青少年等に夢や希望を与えると同時に競技力向上の機会の提供として、海外チーム選手と県内競技者が一緒にトレーニングを行うなどのスポーツ交流を積極的に実施します。

○メディア等招聘による情報発信

キャンプ実施国のメディア等を招聘し、本県の優れた施設環境や観光地としての魅力などについて情報発信を行います。

※ホストタウン

日本の自治体と、東京オリンピック・パラリンピック競技大会に参加する国・地域の住民等がスポーツ、文化、経済などの多様な分野で交流することを通じて、地域の活性化等に活かし、大会を超えた未永い交流を実現することを目的とした取組を行う自治体。

スポーツ合宿参加者数

令和元年度 **5,885人** ⇒ 令和7年度 **7,777人**

スポーツコンベンション参加者数（九州大会以上）

令和元年度 **12.1万人** ⇒ 令和7年度 **18.0万人**

(4) サイクルツーリズム等のスポーツツーリズムによる観光振興と地域活性化

○サイクルツーリズムの推進

イベントやセミナーの開催を通して地域住民の意識啓発及び機運向上を図り、誘客のための積極的な情報発信を行うとともに、サイクルツーリズムを推進している地域において、走行環境及び受入環境の整備に取り組みます。

特に島原半島では、安全・快適なルート設定や走行環境整備をはじめ、サイクリスト用の宿泊やサポート環境の整備など、多くの課題の克服に地元3市や観光関係者、民間企業、地域の方々と連携して取り組み、地域全体の機運を醸成しながら、将来的にはナショナルサイクルルートの指定を目指します。

○ボート公認コースの認定取得

ボートの練習環境として全国的に高い評価を得ている諫早市の本明川ボート練習場について、今後はボートのみならずカヌーやSUPなどの水上スポーツの拠点となるべく、諫早市、県ボート協会と連携して合宿誘致を行いつつ、全国規模の大会開催に必要となる、日本ボート協会公認コースの認定取得を目指します。

○アーバンスポーツの可能性検討

東京オリンピック競技大会において、スケートボードやBMX等が正式種目として採用されるなど、若者の支持を集めているアーバンスポーツへの注目度が今後大きく高まっていくことが予想されます。アーバンスポーツの普及によって、スポーツを楽しむ機会の充実や若者文化の発信による地域活性化が見込まれることから、国内外の動向を注視しつつ、その可能性について検討していきます。



2 プロスポーツクラブを活用した地域の活性化

(1) クラブを活用した地域のにぎわいづくり創出

○県民がスポーツに触れ合う機会の充実

本県のプロスポーツクラブの活躍は県民に大きな夢や感動を与え、県民の一体感や郷土愛を育むことから、「V・ファーレン長崎」と新たに創設されたプロバスケットボールクラブ「長崎ヴェルカ」に対する県民の関心を高め、より多くの県民に応援してもらえよう、イベントの開催や情報発信等を行うとともに、クラブと連携して県民がスポーツに触れ合う機会の充実に努めます。

○自治体の連携体制の構築

クラブの発信力を活かして、地域の課題解決を図るため、クラブと自治体が連携する体制を構築します。

○県外から訪れるアウェイ客の誘致

スポーツ観戦をきっかけとしたアウェイツーリズムを通じて交流人口の拡大を図るため、県外から訪れるアウェイ客の誘致活動を行います。

(2) 長崎スタジアムシティプロジェクトとの連携

長崎スタジアムシティプロジェクトと連携し、スタジアムやアリーナを活用した各種スポーツイベント等の誘致に対する協力を行い、地域の活性化につなげていきます。

また、スタジアム建設や九州新幹線西九州ルート開業を機に多くの県内外の人が県内各地を回遊するなどのにぎわいづくりの創出に向け、民間及び関係自治体が一緒になって進めます。

ビジョンの実現に向けて

1 推進体制

○部局横断的な取組の推進

本ビジョンの実現に向けて、教育委員会も含め、各部局の取組と連携しながら、総合的に取り組んでいきます。

○各市町におけるスポーツの推進

各市町に対して、その地域の実情に応じたスポーツの推進に関する計画の策定や内容の見直しとともに、計画に基づくスポーツの推進に向けた効果的かつ効率的な施策の実施を求めます。

○関係団体等との連携

県スポーツ協会や県障害者スポーツ協会、県レクリエーション協会、各競技団体をはじめとする関係団体や市町と連携体制の強化を図りながら、スポーツ推進施策の充実や効果的な実施方法等について、検討を行い、ビジョンに基づく取組を推進します。

2 進捗状況評価

○ビジョンの進捗状況の評価は、基本方針の達成状況を客観的に把握・評価するために設けた「指標」を用いて行います。

○具体的には、長崎県スポーツ推進審議会において、これまでの実績値や目標年度（令和7年度）との関係を踏まえ、毎年、目標の達成状況の評価を行います。

基本方針	指標	現状値	年度目標値				計画目標値 (2025)
			(2021)	(2022)	(2023)	(2024)	
生涯スポーツの推進	成人の週1回以上のスポーツ実施率	45.5% (2020)	47.2%	48.9%	50.6%	52.3%	54.0%
	総合型地域スポーツクラブの会員数	5,316人 (2019)	5,532人	5,749人	5,966人	6,183人	6,400人
子どものスポーツ機会の充実	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における全国平均以上の種目	19種目 (2019)	全種目 <34種目>	全種目 <34種目>	全種目 <34種目>	全種目 <34種目>	全種目 <34種目>
	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「体育の授業で運動のやり方やコツがわかった」児童生徒の割合	89.7% (2019)	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%	90.0%
競技スポーツの振興	国民体育大会の順位（総合成績）	26位 (2019)	20位台	20位台	20位台	20位台 前半	20位台 前半
	本県ゆかりの日本代表選手数	55人 (2019)	55人	58人	60人	63人	65人
スポーツを通じた地域の活性化	スポーツ合宿参加者数	5,885人 (2019)	6,648人	6,914人	7,190人	7,478人	7,777人
	スポーツコンベンション参加者数（九州大会以上）	12.1万人 (2019)	16.0万人	16.5万人	17.0万人	17.5万人	18.0万人

今後5年間に予定されている主な競技大会

年	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	2023年 (令和5年)	2024年 (令和6年)	2025年 (令和7年)
県内で予定されている主な出来事	・出島メッセ長崎開業	・九州新幹線西九州ルート開業		・長崎スタジアムシティプロジェクト開業	・国民文化祭 全国障害者芸術・文化祭
県内で開催が予定されている主な競技大会	長崎平和マラソン		全国高校男子ソフトボール選抜大会	北部九州総体	全国中学校体育大会 国体九州ブロック大会
日本で開催が予定されている主な国際競技大会	東京オリンピック・パラリンピック	ワールドマスターズ 世界水泳 世界パラ陸上	ツール・ド・九州・山口		

★「出島メッセ長崎」開業 2021年11月1日開業予定
 新たなMICEの拠点となる「出島メッセ長崎」がJR長崎駅に隣接して開業予定。
 ※MICE：企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称

★九州新幹線西九州ルート（武雄温泉～長崎）の開業 2022年秋 開業予定
 九州新幹線西九州ルート（武雄温泉～長崎）は、2012年6月に工事実施計画の認可を受け、順調に整備が進められており、2022年秋の開業が予定されています。

★長崎スタジアムシティプロジェクト（新スタジアム）開業 2024年開業予定
 ジャパネットホールディングスグループが進められている、サッカースタジアムを中核とした複合施設。

★国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭 2025年開催予定
 地域の文化資源等の特色を生かした文化の祭典で、各種の文化活動を全国規模で発表、共演、交流する場となるもの。四大行幸啓の1つ。2025年に本県での開催を目指しています。

☆長崎平和マラソン 2021年11月頃予定
 被爆から75年の節目を迎える2020年に、被爆地長崎から核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現に向けた平和のメッセージを発信するための大会として企画された長崎市初のフルマラソン大会。

☆全国高校男子ソフトボール選抜大会 2023年3月予定
 ソフトボールの全国高校男子選抜大会を長崎県内で開催予定。

☆北部九州総体 2024年8月予定
 令和6年度全国高等学校総合体育大会を北部九州4県（大分・福岡・長崎・佐賀）で開催予定。

☆全国中学校体育大会 2025年8月予定
 令和7年度全国中学校体育大会を九州各県で分散開催予定。

☆国体九州ブロック大会 2025年7月～8月予定
 国内最大のスポーツの祭典である国民体育大会の九州ブロック代表を決める大会。開催権として、1つでも多くの代表権獲得を目指します。

○東京2020オリンピック競技大会 2021年7月23日(金)～8月8日(日)
 ○東京2020パラリンピック競技大会 2021年8月24日(火)～9月5日(日)

○ワールドマスターズゲームズ2021関西 2022年
 国際マスターズゲームズ協会(IMGA)が4年ごとに主宰する、概ね30歳以上のスポーツ愛好者であれば誰もが参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会。

○第19回FINA世界水泳選手権2022福岡大会 2022年5月13日(金)～5月29日(日)
 ○第19回FINA世界マスターズ水泳選手権2022九州大会 2022年5月31日(火)～6月9日(木)

○神戸2022世界パラ陸上競技選手権大会 2022年8月26日(金)～9月4日(日)
 ○ツール・ド・九州・山口（仮称） 2023年
 プロ選手らが複数の県を走る国際自転車競技連合（UCI）認定の国際レースの開催を目指しています。

SDGsとは・・・Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）は、2015年9月の国連サミットで採択され、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現を目指し、17のゴールと169のターゲットで構成される、経済、社会、環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むための国際社会全体の目標です。

スポーツ庁は、スポーツ基本法の理念である「スポーツを通じて『国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む』ことができる社会の実現」を目指しており、このSDGsの達成にスポーツで貢献していくこととしております。

では、どのような取組がSDGsの達成につながるのでしょうか。各基本方針において考えられる具体的な事例を以下にあげてみました。事例を考えるにあたっては、「国際連合広報センター」HPに掲載してある内容を参考にさせていただきました。

基本方針1 生涯スポーツの推進

3 3 すべての人に健康と福祉を
スポーツを通じた健康増進や障害者スポーツの推進、県民の誰もがスポーツに親しむことができることを目的に行う施策は『あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する』ことに繋がります。

11 11 住み続けられるまちづくりを
総合型地域スポーツクラブを通じた地域コミュニティの形成や気軽に利用できるスポーツ施設やサービスは『包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する』ことに繋がります。

基本方針2 子どものスポーツ機会の充実

4 4 質の高い教育をみんなに
スポーツを中心とするプログラムは初等・中等教育以後の学習機会や、職場や社会生活でも応用できるスキルの取得に向けた基盤ともなりえることから、学校における体育学習やスポーツ活動は『すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する』ことに繋がります。

5 5 ジェンダー平等を実現しよう
スポーツを中心とする取組やプログラムが、女性や女兒に社会進出を可能にする知識やスキルを身につけさせる潜在的可能性を備えている場合、『ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女兒の能力強化を行う』ことに繋がります。

基本方針3 競技スポーツの振興

8 8 働きがいも経済成長も
スポーツ産業は、女性や障害者などの社会的弱者集団を含め、雇用可能性の向上と雇用増大の機会を提供することから、競技スポーツの振興は『包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する』ことに繋がります。

14 14 海の豊かさを守ろう
マリンスポーツなど、スポーツ活動と海洋とのつながりを活用すれば、スポーツだけでなく、その他の分野でも、海洋資源の保全と持続可能な利用を提唱できることから、マリンスポーツの強化・充実に取り組むことは『持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する』ことに繋がります。

基本方針4 スポーツを通じた地域の活性化

10 10 人や国の不平等をなくそう
年齢、性別、障害、国籍などにかかわらず、すべての人がスポーツを楽しめる環境を整えることは、『各国内及び各国間の不平等を是正する』ことに繋がります。

16 16 平和と公正をすべての人に
スポーツを通して国際交流を行うことは、相互理解や平和の文化を推進する基盤となることから、『持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する』ことに繋がります。

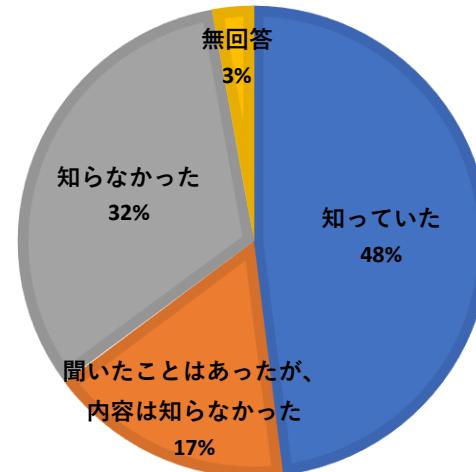
上記は一例であり、他にもSDGsの達成にスポーツで貢献できることはあります。平和の祭典と言われるオリンピック。紀元前から行われていた古代オリンピックは、戦争を中断して開催されていました。1994年のリレハンメル大会以降、開催期間中はあらゆる紛争や戦争行為の休戦を呼びかける取組(オリンピック休戦)が行われています。世界的な課題に取り組んでいくためには、スポーツが必要不可欠なツールと言われる理由がわかります。

eスポーツとは・・・「エレクトロニック・スポーツ」の略で、コンピューターゲームを用いた競技を指します。ゲームには、PCゲーム・家庭用ゲーム・スマートフォンゲームが含まれ、アミューズメント施設に設置された業務用ゲーム機を用いて行われる場合もあります。

身体運動を伴う遊戯・競争を“スポーツ”と総称しますが、マウス・キーボード・専用コントローラーといった手による操作に限定されるeスポーツを“スポーツ”と定義すべきかといった問題については、現在、議論が交わされているところです。

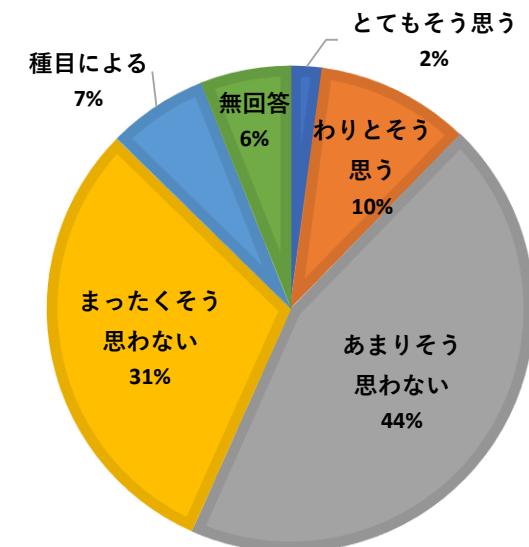
県民のeスポーツに対する意識 (令和2年長崎県実施「県民のスポーツ実態に関するアンケート調査」より)

① 「eスポーツ」をご存知でしたか。



「知っていた」が48.0%で最も多く、次いで「知らなかった」が32.3%、「聞いたことはあったが、内容は知らなかった」が16.8%の順となっており、「eスポーツ」の認知度は64.8%。

② 「eスポーツ」をスポーツだと思えますか。



「あまりそう思わない」が44.4%で最も多く、次いで「まったくそう思わない」が30.7%、「わりとそう思う」が10.2%の順で続いており、「スポーツだと思う(「とてもそう思う」+「わりとそう思う」)」と回答した人は12.3%でした。

< eスポーツの可能性 >

- ① スポーツに関心がない人へのきっかけづくり**
サッカーやテニスなどのゲームをきっかけに、実際のスポーツにも興味をもってもらおう。
- ② 障害のある人も楽しめる**
物理的移動が困難でもスポーツを疑似体験し楽しむことができる。
- ③ 高齢者の活動支援**
高齢者同士や家族で楽しむことでコミュニケーションの促進や健康増進に繋がる可能性がある。
- ④ 産業の活性化**
世界で賞金100億円を超える大会も開催されるなど市場規模は大きく、国内でも様々な業界の大手企業が参入するなど、今後も発展が期待される。
- ⑤ ウィズコロナ時代への対応**
オンラインで対戦できることは、ウィズコロナ時代においては大変な強みである。

< 課題 >

世界保健機構(WHO)がゲーム障害(依存)を精神疾患と位置づけており、若年層を中心にゲーム依存症の問題が懸念されています。

eスポーツをスポーツとして扱うのかも含め、今後も慎重に議論を重ねながら、eスポーツがもつ可能性についての情報収集や、関係団体との連携を図っていきます。

長崎県スポーツ推進審議会委員

任期：令和2年8月1日～令和4年7月31日

	職 名	氏 名
会 長	長崎大学 名誉教授	小原 達朗
副会長	長崎国際大学人間社会学部 准教授	宮良 俊行
委 員	一般社団法人長崎県医師会 常任理事	天本 俊太
委 員	長崎県ボート協会 会長	植田 京子
委 員	長崎県スポーツ推進委員協議会 理事	榎田 則子
委 員	一般社団法人長崎県バスケットボール協会 専務理事	太田 京子
委 員	公募委員（長崎純心大学 教授）	熊野 晃三
委 員	長崎県高等学校体育連盟 会長	後藤 慶太
委 員	株式会社長崎新聞社 編集局報道本部運動部長	城 知哲
委 員	一般社団法人九州スポーツツーリズム推進協議会 代表理事	杉島 宰治
委 員	一般社団法人長崎県観光連盟 専務理事	園田 幸四郎
委 員	長崎県中学校体育連盟 会長	竹市 保男
委 員	長崎県総合型地域スポーツクラブ クラブアドバイザー	田原 由美
委 員	一般社団法人長崎県障害者スポーツ協会 会長	土岐 達志
委 員	公募委員（五島市文化財審議委員）	中村 真由美
委 員	公募委員（東長崎総合型スポーツクラブ 理事長）	福田 正義
委 員	NPO法人長崎県レクリエーション協会 生涯スポーツ推進部長	松山 真理子
委 員	公益財団法人長崎県スポーツ協会 事務局長	宮崎 恭輔
委 員	株式会社V・ファーレン長崎 取締役	由井 昌秋

（敬称略・五十音順）

ながさきスポーツビジョン(2021-2025)



長崎県文化観光国際部スポーツ振興課

〒850-8570 長崎県長崎市尾上町3番1号

TEL 095-895-2781 FAX 095-824-6300

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/kensupo/index.html>